

お別れ会でこころはひとつ
～私もこんな風に見送ってほしい～

社会福祉法人 悠生会

介護老人福祉施設 白ゆりあいの里

当時の看取りに対する思い

医師

- 治療が一番
- 病院で亡くなるべき

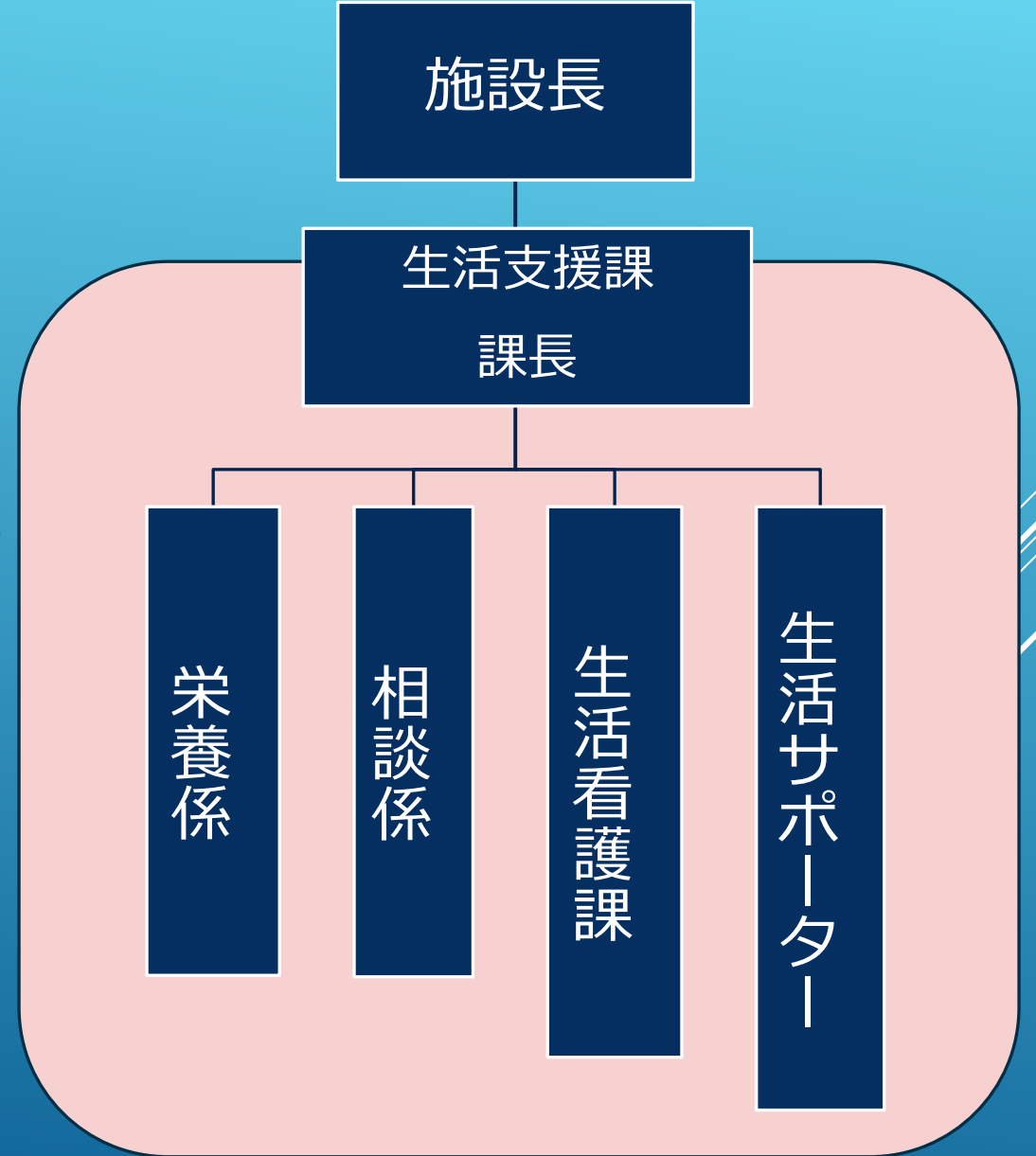
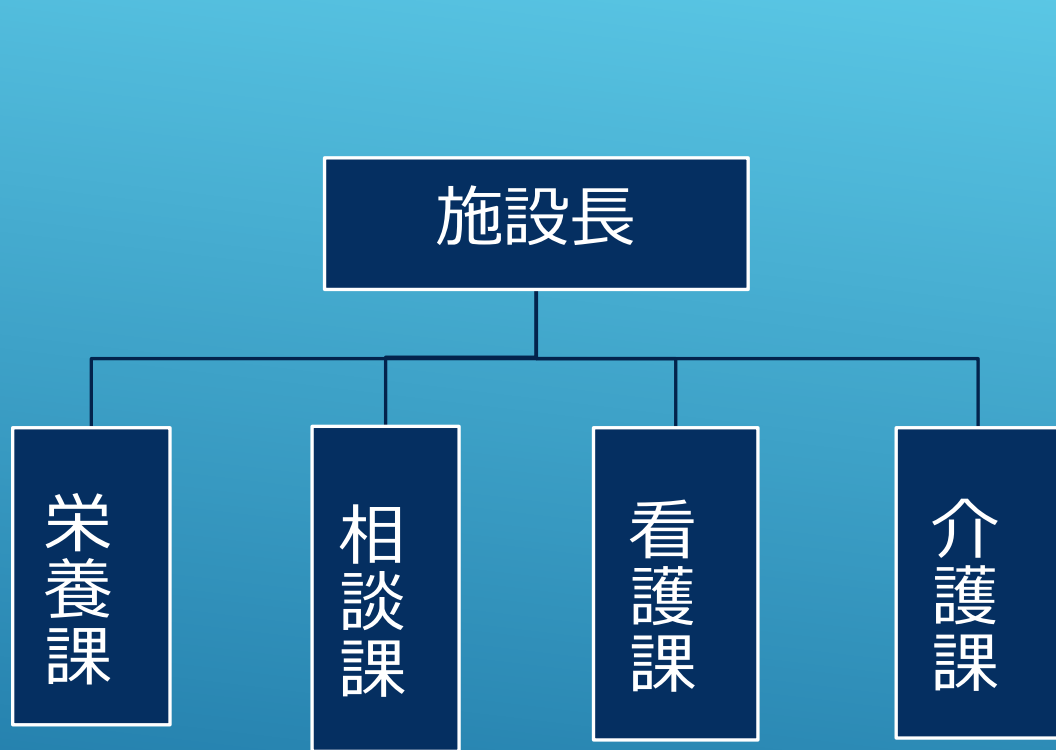
看護師

- 治す為に全力を注ぎたい
- 何もしないのは見殺すようで罪悪感を抱く

当時の看取りに対する思い

介護職

- 病院に入院し、食べられなくなったら施設に戻って来られない。
- 退居となり、いつの間にか亡くなっている。
- 関係性も終わってしまう。
- 「最期は施設で」という希望があっても応えることができない。



思いが通じ、協力者が集まり そして形となる!!

医師

- 看取り援助は職員の覚悟が必要

看護師

- 症状に合わせた勉強会

看取りの体制を入居者・ご家族も心待ちに していました。

□□□□

私の最後を看して下さい
お医者様

私の最後を看して下さい
お医者様に今から書面にて
お願いして置きます
私は今年八十一歳になりました
周りの皆々様、又子達の
お陰にて、今日迄命、永きに
幸多き日々を送るに参り
とても感謝して居ます。今はいつ
花を迎えても、良しと思っております
あまり苦しまず、安らかに
旅立ちたいと願っております

先生にお願いした事、どんな
事がありましたかと、身に管を入れて
点滴をして、延命措置を
下さるまで、下さる、あまり苦しい
時は痛み止めの注射をして下さる
自然花をさせて下さる、
呉れぐ、お願い申し上げます
私の最後診して下さい
お医者様、ありがとうございます

平成七年五月三十一日

特別なことではない

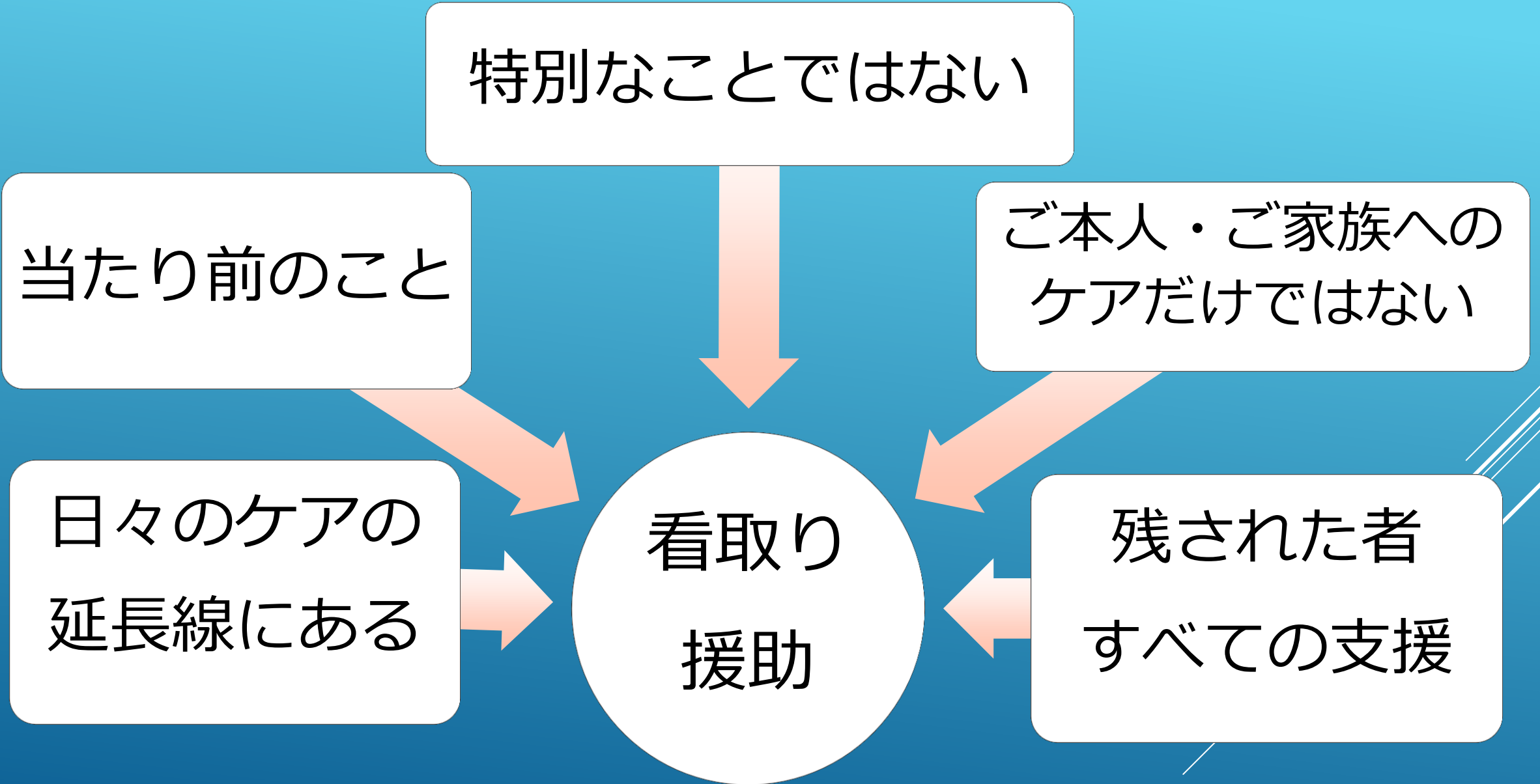
当たり前のこと

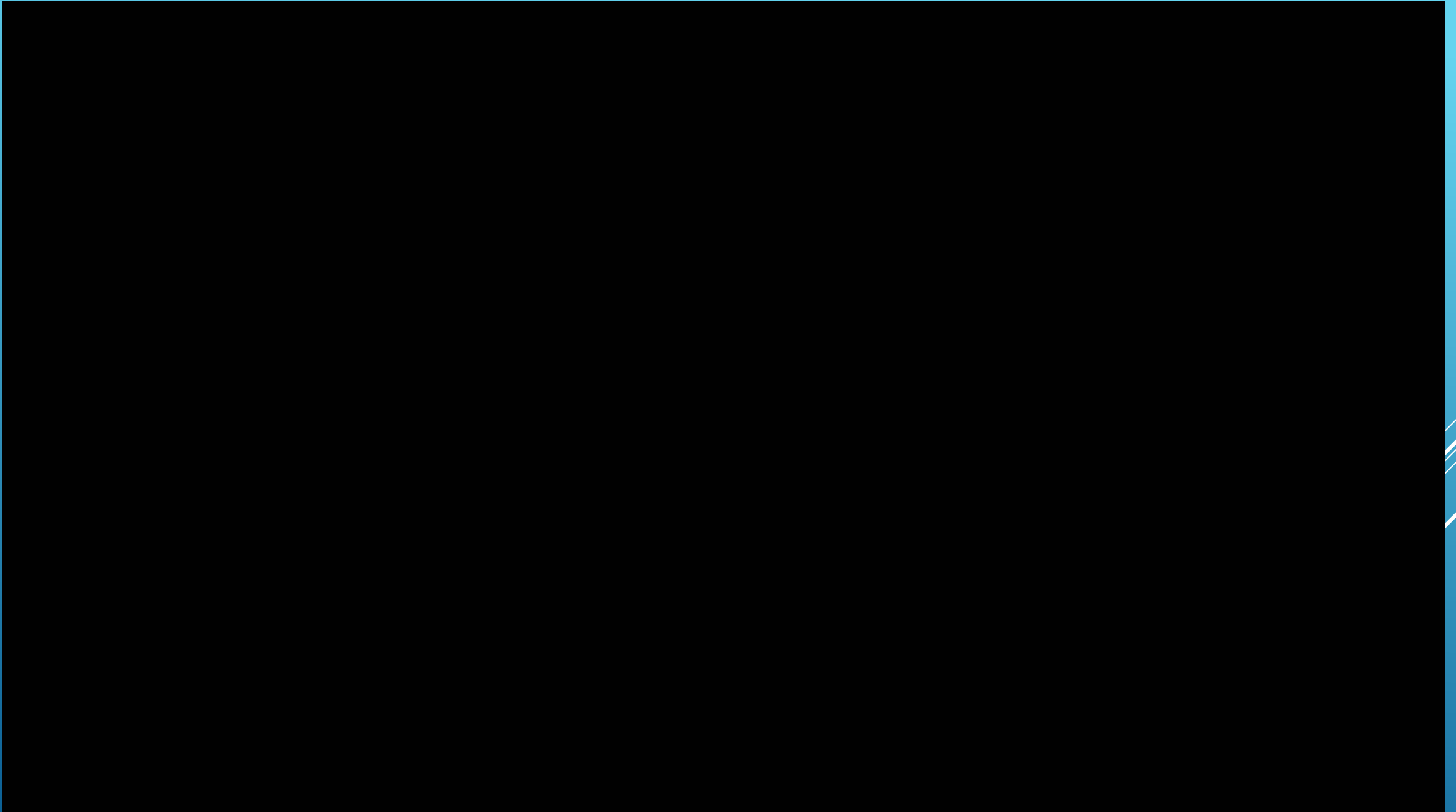
ご本人・ご家族への
ケアだけではない

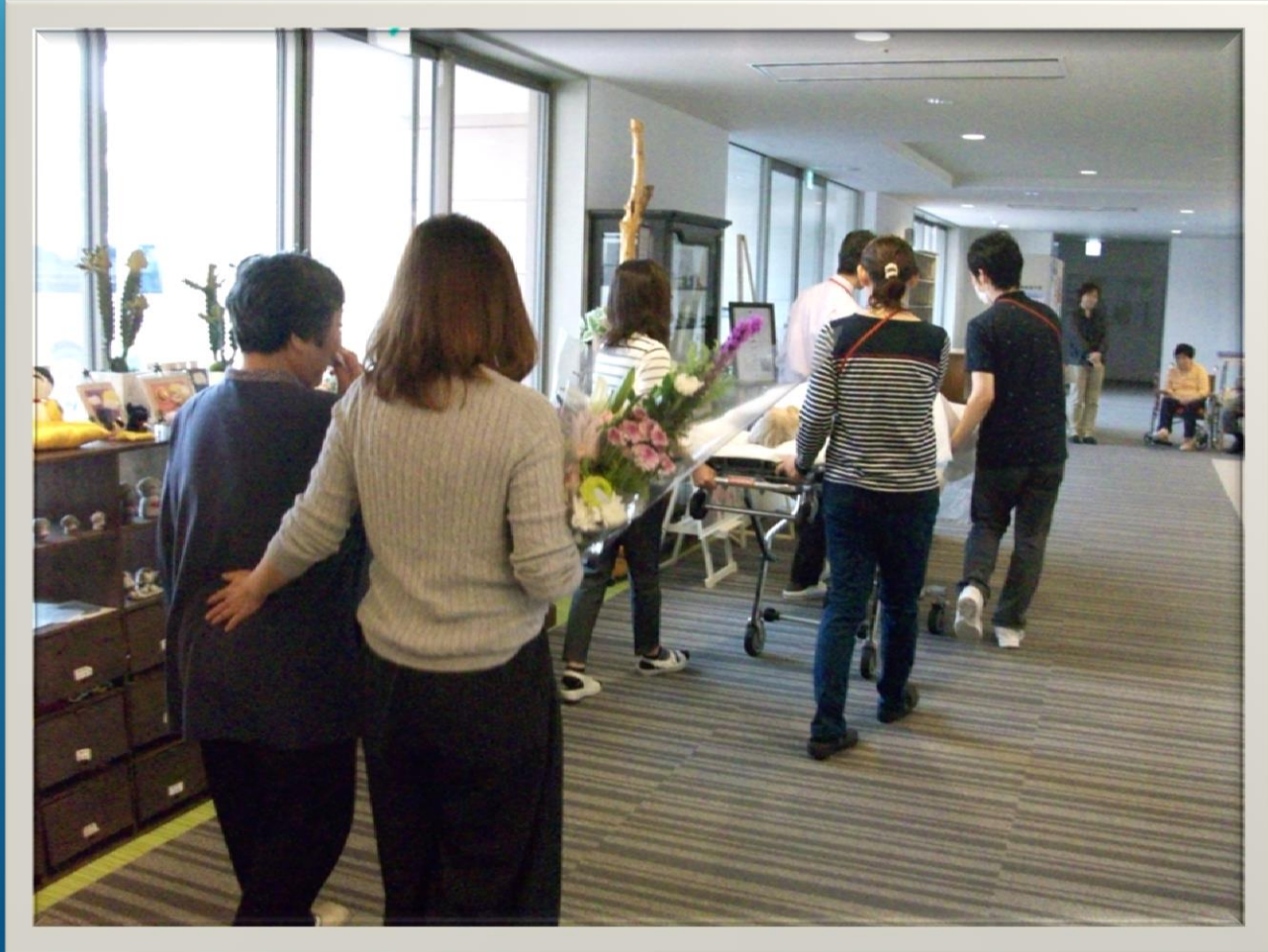
日々のケアの
延長線にある

看取り
援助

残された者
すべての支援







死は隠す
ものでは
ない。

認知症の人で
も、経験の中
できちんと死
を受け止める
ことができる。

悲しみを分か
ち合い、一緒
に乗り越えて
いく

死を前にしての不安よりも

「私もこんな風に看取られ
皆に囲まれて
見送ってほしい」

という声が多い

お別れ会の意味するもの

入居者

- 気持ちの区切りをつけるため慣習としての儀式が必要
- 死を隠され、そっと出ていかなくてはいけないイメージがなくなり安心される。

職員

- 最後まで自分たちの手で送ること後悔のない、やり切った思いがもてる。
- ご家族と毎回向き合い、馴れ合いの気持ちにならない。

ご家族

- 照れくさいことでもセレモニーとしてなら伝えやすい。



◎ お別れ会をしたからこそ
それぞれの気持ちの整理もでき
関係性が継続していく。

◎ 「忘れないでいてくれる」という
安心感は、ご家族にとって退居後も
施設との繋がりをもちやすい。

今後の課題

入居者、ご家族の想いに添った看取り援助とお別れ会

職員への研修及び看取り援助への関わり

多職種連携・専門性を活かすためのチームワーク

コミュニケーション能力の向上



ご清聴ありがとうございました